

指導行政のポイント

“日教組の影響力”への懸念

菱村 幸彦

政権交代で、日教組が勢力を増して、学校教育に対し影響力が強まるのではないかと懸念する声がある。この点をどう考えるか。

労組にシンパシーを持つ民主党

民主党は、日教組も加盟する日本労働組合総連合会(連合)の支援を受けている。また、民主党には、日教組の幹部だった国会議員が5名いる。このほかに日教組が応援する「日本民主教育政治連盟(日政連)」議員が、衆院に3人、参院に2人(うち1人は社民党)いる。

なにより、鳩山内閣の閣僚には、労働組合出身者として、例えば、平野官房長官(松下電労組)、直嶋経済産業相(トヨタ労組)、川端文部科学相(東レ労組)がいる。ほかにも、副大臣3人、政務官2人が労働組合出身という。

こうした点からみて、鳩山内閣が労働組合の影響を受けるのではないかと懸念が出るのは、当然であろう。各閣僚は、政策決定にあたって労働組合の影響は受けないことを強調しているが、鳩山内閣が労働組合の政策提言にシンパシーを持って対応するであろうことは推測に難くない。

鳩山内閣が実施に移そうとしている教育政策をみると、そのほとんどが日教組の政策提言と重なっている。高校の無償化、学力調査の抽出調査、免許更新制の廃止、教員定数の増員、学校単位の教科書採択など、いずれも日教組の年来の主張である。

これらの施策の効果については、議論の余地は残るが、これを実施したからといって、際立って学校教育にマイナスということはないと思う。

懸念されるのは、むしろ教育内容への影響である。が、私は、それも懸念するには及ばないと考えている。その点をもう少し具体的にみてみよう。

世間で懸念されているのは、まず、国旗・国歌の

指導が政権交代で後退するのではないかと、という点である。

国旗・国歌や道徳教育はどうなるか

しかし、これはまず心配ないと思う。なぜなら、鳩山首相は、衆院予算委員会で「日の丸、君が代は大変大事なものだ。今後とも日の丸掲揚、君が代斉唱を指導する」と述べているからだ。川端文相も「国旗・国歌は大事にしなければならないという意識は国民に定着している。教育現場でもそれを大事にするという教育があつてしかるべきだ。公務員は法律に従って行動すべきだ」と言明している。

次に、日教組は、かつて、道徳教育に反対運動をしてきたから、政権交代で道徳教育が疎かになるのではないかと、という懸念である。

過去はともかく、今日では日教組も道徳教育の重要性は認識している。世論調査等では、いま教育で重視すべきものとして道徳教育を挙げる人は多い。となれば、鳩山内閣も道徳教育を疎かにすることはできない。ただ、事業仕分けで「心のノート」が不要と判定されたのが気になるが、文科省の政務3役は、これを概算要求に盛り込んでいる。鳩山内閣が道徳教育をこれまで以上に熱心に取り組むことは期待できないとしても、疎かにすることはないだろう。

もう1つ、日教組が自己に都合のいい方向に指導要領を変えるのではないかと、という懸念を表明する人もいる。

しかし、これもあり得ない。なぜなら、川端文相は、記者会見で「指導要領は長い時間をかけて準備してきたもの、いまそれを切った貼ったみたいなことをして混乱を招くことは避けなければならない」と新指導要領をそのまま実施する旨を明言しているからだ。

(ひしむら・ゆきひこ = (財)学習ソフトウェア情報研究所 理事長)

■好評発売中!

B5判・定価 2,415 円

教育開発研究所・刊

『教職研修DATA '08-'09 重要教育資料』

『教育の最新事情がよくわかる本』 B6判・270頁・定価 2,100 円